

グラビア	地域を支える人 柳川貴紀さん・広島県	1
発掘!地域の希望のタネ	〈ミライエ〉高知県日高村	5
給食のじかん	〈かてめし〉埼玉県上尾市	間宮孝子 6
書評	堤修三著『社会保険の政策原理』	菅原敏夫 8
焦点	問題だらけの土地規制法 —法の発動を許さず、廃止を求めて—	馬奈木巖太郎 10

特集 再考・介護保険

鼎談	「介護の社会化」の二〇年	小竹雅子	16
	介護保険をつくったのはだれか —制度創設の黎明期をたどる—	福山真劫+香取照幸+ 徳茂万知子+林 鉄兵	26
	コロナ禍でもつながり続ける 生駒市の地域包括ケアの取り組み	田中明美	40
	コロナ禍で苦闘する介護現場の 人材確保・育成—介護崩壊を防ぐために—	小山政男	47
	「人を大事に、人を育てる」 地域に根ざしたNPOの挑戦 —町田サポートセンターあさひの取り組み—	伊東 寛	54

各県自治研活動レポート	自治研集会「仙台市における住民自治の 進むべき道すじ」の開催—宮城県本部—	菅原浩志	64
-------------	--	------	----

連載	東日本大震災の被災地は今⑥福島県浜通り 東日本大震災・原発事故から一〇年が経過して	澤田精一	67
----	--	------	----

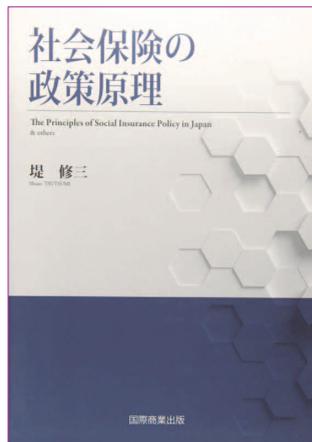
	自治研センターの機関誌案内	75
--	---------------	----

	次号予告・編集部から	76
--	------------	----

『社会保険の政策原理』
国際商業出版 四九五〇円
堤修三著



介護現場はなぜ辛いのか
自治総研の研究スペースを引き払うために書棚を整理した。介護保険関係の本も何冊もあった。「だから職員が辞めていく」「介護現場は、なぜ辛いのか」「おかしいよ！改正介護保険」と厳しい書名が並ぶ。介護保険は分権の試金石というように、地方自治と絡めて論ずる主張は絶えた。



本号の特集に合わせてこれらの本を読み直してみた。本書はその中の一冊。二〇一八年の刊行である。
本人は自らを「社会保険原理主義者」であると言ってはばからない。その目で「連帯（利害の共有）」と「強制」（加入）を本質とする、現行の社会保険制度全体を見直す。その中でも書評子は介護保険を論じた章に着目する。なぜなら、著者は介護保険発足時の制度実施推進本部事務局長、後に老健局長。正真正銘、制度生みの親の一人である。

介護保険の本質

制度発足時の広範な議論が整理される。そもそも要介護状態は社会保険として対応すべきリスク（保険事故）なのか。多くの国民・市民が遭遇する蓋然性の高い、強制加入への納得を得られるリスクなのか。要介護者が受け取る保険か、介護を行う人が受け取る保険か、サービス給付は準市場（自由開業・公定価格）に委ねるべ

きか、保険者による給付を主軸とすべきか。その中でも、独立型介護保険（実現したのはこれ）か、医療保険との一体型保険かの選択は、財源、実施主体、市町村の役割についてのちに大きな壁にぶつかる要因となった。
さらば介護保険

さらに、スタート後最初の本格的改正の二〇〇五年から、保険機能の後退、保険原理からの逸脱が早くも始まる。財政当局は介護保険の導入そのものが失敗だったと考え始める。

二〇一四年のお正月、著者の個人通信紙上ではあったが、「さらば介護保険」という見出しが登場した。書評子も少なからず驚いた。

書棚の書籍のほとんどはエフアジャパンの古本基金に寄付した。いつの日か古書店に並ぶだろう。お気づきの読者は著者の思いを伝えてほしい。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員